

キャリア教育推進地域		
中学校区名：江田島市立江田島中学校区		
推進地域を構成する学校		
学校名	学級数	児童生徒数
江田島中学校	8	138
切串小学校	7	46
江田島小学校	9	216

(R3.11.1現在で記入)

1 指導上の課題

- 学習活動とキャリア形成のつながり
学校での学習と自らの将来や社会とのつながりが十分に認識できていないため、学習意欲が低く、学力の定着が不十分である。その中でも特に、粘り強く継続して取り組む力と思考力が課題が見られる。
- 自己認識・自己表現能力
自分自身のことを正しく認識し、それを相手や場面に応じて適切に表現する力が弱い。

2 研究の概要

(1) 研究テーマ及び研究のねらい

- 研究テーマ
小中9年間を通してキャリア発達を促すカリキュラムの在り方～開発と実践、評価を通して～
- 研究のねらい
・小中9年間の特別活動、総合的な学習の時間におけるキャリア教育の教育課程の作成を行い、充実を図る。
・全教科の授業において、育てたい資質・能力の育成を図る。

(2) 資質・能力の設定について

○上記の課題を踏まえて、次のように資質・能力を設定した。

江田島中学校区の 15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力				
自己を認識する力	表現する力	自分の人生を選択する力		
自分は何が好きなのか、自分はどういう人間なのかなど、自分自身のことを理解することができる力	自分自身のことや自分の感情などを、相手や場面に応じて言葉の使い方や表現の仕方などを工夫しながら伝えることができる力	自分の夢や目標、自分がやりたいことなどについて、自分で考え、選択し、自分の意志で決めることができる力		
中学校区で育成を目指す児童生徒				
育成を目指す 資質・能力	小学校 低学年	小学校 中学年	小学校 高学年	中学校
自己理解能力 自己管理能力	自分のよいところを言える。	自分のよさに気づき、自己を高める目標をもち、努力しようとしている。	自分のよさを生かし、集団の中での役割を果たそうとしている。	自分のよさに気づき、何事にも自分から進んで取り組もうとしている。
人間関係形成能力 社会形成能力	友だちと仲良く遊び助け合っている。	友達によさに気づき、互いに認め合い協力しようとしている。	お互いの関わり合いを大切にし、自分の役割を理解し、それを果たそうとしている。	自分の考えを伝えるとともに、他者の意見も聴きながら協働して何事にも取り組もうとしている。
課題対応能力	身の回りの出来事に対して思ったことが言える。	身の回りの出来事に対して意見をもち、解決しようとしている。	課題に対し意見を出し合い、解決しようとしている。	課題を見出し、適切な解決方法を工夫し、取り組もうとしている。
キャリアプランニング能力	将来の夢や希望をもち、身近で働く人に興味、関心をもち、	働くことの大切さが分かり、様々な仕事があることを知る。		将来に向けた夢や目標を持ち、達成に向けた計画を見直し、努力している。

系統表については、より児童生徒の実態に近く、具体的に分かりやすいものへと見直し、改善を重ねている。

3 取組

(1) 小学校の取組について

【小学校における出前授業】

- 江田島小学校
- ・第4学年 社会科 単元名「住みよい暮らしをつくる」
- ・資質・能力との関連：課題対応能力

サントリー株式会社へ依頼をし、「未来に水を引き継ぐために」というテーマでオンライン授業を実施した。授業では、すごろくやクイズを行いながら、自分たちの生活が水の循環に与えていることに気付くことができた。また、森の働きについて理解し、森を守るためには工夫や努力が必要で、水について考え続けることが大切であることを学んだ。

○切串小学校

- ・第4学年 社会科 単元名「自然災害からくらしを守る」
- ・資質・能力との関連：課題対応能力

江田島市危機管理課の方に依頼をし、「災害等から身を守る方法～台風・土砂災害・大雨編～」というテーマで授業を実施した。授業では、まず、平成30年度の西日本豪雨の際の被害の様子を、映像を用いて振り返り、その後、災害発生時どう行動すればよいのか、お互いに意見交流を行った後、マイ・タイムラインを作成させ、避難場所や避難時の持ち物などについて確認を行った。

【小学校における独自の取組について】

○江田島小学校

- ・第5学年 総合的な学習の時間 単元名「じまんを広げ隊！江田島」
- ・資質・能力との関連：課題対応能力

大阪府の株式会社第一精工舎より講師を招聘し、江田島の牡蠣殻を使ってボールペンや鉛筆などの製品を作るSDGsの取組について話を聞いた。児童は授業を通して、SDGsの取組を難しく考えるのではなく、日頃何気なくゴミにしているものを資源として考えることから始めるなど、「自分のできることから」ということをキーワードとして考えるとよいことを学んだ。また、「自然をどうやって守るか」という課題に対して自分の考えを持ち、解決に向けて取り組もうとする姿勢も見られた。

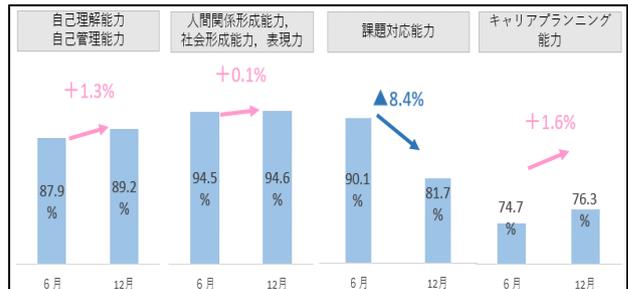
○切串小学校

- ・第6学年 総合的な学習の時間 「緑の少年団」の活動
- ・資質・能力との関連：課題対応能力

学校教育目標に「ふるさとを愛し、よりよく生きる」を掲げ、地域に根ざした教育活動を行っている。この活動は今年で40年を迎え、昨年からは学校林の整備等にも取り組んでいる。学校林を魅力ある場所としてアピールし、地域の人たちが集まって自然を楽しめる場所にしたいと考え、地元でキャンプ場を開いた方を講師として、お話を聞いた。ウェブサイトを活用して発信したり、グーグルマップを活用したりして学校林の場所を知ってもらう等、アピールする方法や工夫について学んだ。この取組を通して自分たちで出合ったアイデアを、学習発表会の場において全校児童に向け発信することができた。

【資質・能力の評価】

○6月と12月の児童アンケートより



<考察>小学校では、環境問題や防災をテーマに出前授業を実施し、社会の取組や社会問題に対する児童の興味・関心を高めることができた。その結果、「自分の個性や興味・関心のあることに基づいて、将来の仕事を考えていますか。」「自分にふさわしい職業について、どうしたらなれるのか知っていますか。」に対する肯定

的回答の割合がそれぞれ増加し、児童の自己理解能力・自己管理能力、及びキャリアプランニング能力の向上につながったと考えられる。一方、育成を意図した課題対応能力の結果が伸び悩んだ。これは、児童に課題を設定・選択させる機会が十分確保できなかったためだと捉えている。

（2）中学校の取組について

【中学校における出前授業】

○第1学年の生徒に対して、江田島市危機管理課より講師を招聘し、防災教育を実施した。ひろしまマイ・タイムラインを作成し、災害が起こった際にはどのような道具が必要で、どのようなルートで家の近くの避難所へ逃げればよいかを学び、まとめた。保護者も一緒に家庭で逃げ道地図マップを見ることによって、生徒の防災意識を高めることができた。

○株式会社トンボの広報部より講師を招き、第2学年の生徒を対象に、実施予定であった職場体験活動に向けてのマナー講座を行った。表情や見た目、声のトーンや話し方に重点を置いて指導していただくことで、伝える力・聴く力の育成へと繋がった。

【中学校における職場体験活動の充実】

・資質・能力との関連：人間関係形成能力・社会形成能力
 ○受入れ先の企業（江田島市内の57事業所）と、職場体験活動により充実させ、活動を通して資質・能力の育成を図るため、校区で設定しためざす資質・能力を共有するとともに、「自分で考えて行動する場面を作してほしい。」等の4つの事項について、教職員から事前に依頼をした。このことによって、学校と企業が一体となったより焦点化した指導を行うことができた。地元企業からも「具体的なお願いであるため分かりやすく、実行しやすい。企業側が活動の目的が明確なるのでありがたい。」との声をいただいた。結果的に、新型コロナ感染拡大防止のため、職場体験活動は中止となったが、受入れ先の企業へ直接生徒が出向き、実際の仕事の内容や、仕事をする上で大変なことなどについて職場インタビューを行った。また、職業調べサイトを活用し、将来の職業観・勤労観について学習を深めたり、これからの自分の在り方について考えを持たせたりすることにも取り組んだ。

【中学校における外部人材による面接体験】

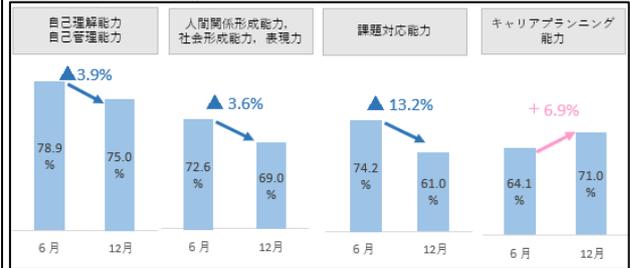
・資質・能力との関連：キャリアプランニング能力
 ○広島市内の6社の人事部の方に来校を依頼し（内1社は、希望によりオンラインで実施）、約20分間の企業PR（企業理念や欲しい人材等について説明）を受けた。その説明を基に、第3学年の生徒にどの企業の面接を希望するのか、考えさせた。
 ○企業面接体験では、エントリーシートと面接事例集を基に面接を実施した。生徒が将来への目標を持てるよう、面接官から生徒一人ひとりに足りていない資質・能力を直接口頭で伝えてもらうとともに、紙面による評価シートも生徒へ渡していただいた。面接後の振り返りでは、「自分のよさや足りていない点があった。良い点はさらに伸ばし、足りない力を身に付けられるようにしたい。」等、自分の長所・短所に目を向け、努力しようとしている生徒の姿が多く見られた。

【中学校における独自の取組について】

・資質・能力との関連：人間関係形成能力・社会形成能力
 ○立志式（最学年を迎えるに当たっての決意を作文にして生徒一人ひとりが発表する行事）に向けて、タブレット端末を活用してパワーポイント資料を作成させ、自分の好きなことや将来の夢や目標について語る「自己表現」活動を行った。他者の発表を聞いて評価させるとともに、質疑応答やアドバイスをし、自己表現能力を高めることができた。

【資質・能力の評価】

○6月と12月の生徒アンケートより



＜考察＞中学校では、企業調べ、企業説明会、及び面接体験を実施したことで、職業決定への一連の流れを体験させることができた。その結果、アンケートの「将来進みたい学校や、就きたい職業について調べていますか。」という質問への肯定的回答の割合が6.9ポイント上昇し、生徒のキャリアプランニング能力の向上につながった。一方、その他3つの資質・能力について、数値が下がったことが課題である。要因として、資質・能力の評価について、単元計画の中に明確な位置付けができておらず、生徒自身に変容を自覚させきれなかったことが挙げられる。また、生徒の振り返りに「体験前よりも自分に足りない部分について真剣に考えるようになった。」等の記述があり、取組を進める中で、自己を再認識し、自分への見方が厳しくなったためだと分析している。

○同一生徒の記述式アンケートの変容（将来の夢を実現するために取り組んでいること）（上：6月，下：12月）

答に「たこ焼きも積極的に
調べること。」

ITに関わる、様々な分野で取組
まわりのことについて積極的に
調べている。

＜考察＞6月時点では、漠然とした内容しか記述できていなかったが、12月時点では、自分の興味・関心に気づき、将来の目標に向けて具体的に行動しようとする姿へと変容していることが分かる。

4 研究の成果と課題等

（1）成果

○小中で共通のめざす資質・能力を設定し、その実現に向けてキャリア教育担当者を中心に、小中連携をしながら取組を進めることができた。

○各小学校における環境問題や防災をテーマとした出前授業や、中学校における企業面接体験等を通して、本中学校区で育成をめざす資質・能力の向上へとつなげることができた。

（2）課題

●小中連携を通して取組を進めたものの、各取組でどの資質・能力についてどのように見取ったかが明確になっていないものもあり、単元計画や検証方法等に課題があったため、一部の資質・能力について結果が伸び悩んだ。

（3）今後の改善方策等

計画段階から、どの取組でどの資質・能力を育成するのか、その検証の仕方も含めて明確にしながら、キャリア教育を推進していく。また、児童生徒が課題設定を行う時間を十分に確保するとともに、教師も児童生徒も変容が見取れるポートフォリオやワークシート等による評価を行うことによって、課題となった資質・能力の育成に努める。